



● 巻頭エッセイ「チーム学校」は切り札? ..... 1	● 授業デザインスキルアップ演習報告 ..... 3
● 2015 年度「教員免許状更新講習1・2」報告 ..... 2	● 授業の玉手箱 語彙活動：可視化してモチベーションアップ ..... 4
講習1：発信型の英語コミュニケーション能力の育成 ..... 2	● 書籍紹介『英語の冠詞 その使い方の原理を探る』 ..... 4
講習2：授業指導技術スキルアップ演習（発音・音声教材・学習教材）2	● 編集後記：第 39 回・40 回勉強会案内 ..... 4

巻頭エッセイ

「チーム学校」は切り札?

中垣 芳隆

平成26年度版の「文部科学白書」に目を通して、「教育におけるガバナンス機能の確立」と題した節に「教育委員会制度改革」「大学ガバナンス改革」と並んで「チーム学校」という項目を見つけ、ガバナンスとどのような関わりを持つのかと興味を引かれた。

白書の短い文章では現状の何を課題として、どのように改善しようとするのか、更には改善に伴い生じるであろう新たな課題とそれへの配慮事項等について詳しく触れられていないので、ネットで「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」（チームとしての学校・教職員の在り方に関する作業部会中間まとめ）に当たってみた。

中間まとめの中に、「教職員総数に占める教員以外の専門スタッフの割合は、日本が約18%であるのに対して、米国が約44%、英国が約49%となっているなど、諸外国と比較した我が国の学校の教職員構造は、教員以外の専門スタッフの割合が低い状況にあると考えられる。このため、教員の業務を見直し、専門スタッフ等が教育活動や学校運営に参画し、教員と事務職員、専門スタッフ等が連携、分担して校務を担う体制を整備することが重要である。」とある。

ここに挙げられているパーセンテージの分母と分子が、おそらくは単純に常勤、非常勤職員の合計をあてているのであろうが、専門スタッフの割合が日本に比べて多いことによってそれらの国の教育が日本の教育より明らかに優れているというデータによる実証説明がなくては説得力にかける。また、米国と英国以外に何か国が調査対象であったのだろうか？

これまで文部科学省は、学校の教育環境を整えるために、少人数学級の実現をめざして40人学級から35人学級をめざしていたはず。しかし、国の厳しい財政状況の中で、そう簡単に教員の数を増やすことはできず、指導に手がかかるとされる小学校1年生で実現したのにとどまっている。それどころか政府内部では、少人数学級にしても効果が上がるかどうかは疑問だとして、逆に40人学級に戻すよう求める議論が起きているのは周知の事実。平成27年度の概算要求では文科省の2760人の定数改善要求にもかかわらず、厳しい財政状況から定数措置されたのは900人。穿った見方をすれば、教員を増やすという従来の方針では展望が開けないので浮上してきたのが「チーム学校」という考え方ではないかと思われる。

中間まとめの3部構成の中で、文部科学白書の「教育におけるガ

バナンス機能の確立」と直接関わる項目としては、3「具体的な改善方策」の(2)学校のマネジメント機能の強化中の、①管理職の適材確保及び②主幹教諭制度の充実とする項目と思われる。

校長についての記載は、「チームとしての学校における校長には、多様な専門性を持った職員を有機的に結びつけ、共通の目標に向かって動かす能力や、学校内に協働の文化を作り出すことができる能力などの資質が求められる。また、学校の教育活動の質を高めるためには、校長の教育的リーダーシップが重要であり、教育指導等の点で教職員の力を伸ばしていくことができるような資質も求められている。」とある。

これまでも校長のリーダーシップについて文科省の様々な文章でお目にかかっているが、概ね生徒指導提要にある、「校長のリーダーシップの下に、・・・関係機関との密接な協力、連携体制を構築する必要があります。」であったと思われる。

中間まとめでは、現状に比して格段に校長にマネジメント能力が要求されていることが一読して読み取れるが、ただでさえ多忙な校長職に教育とは異なる文化を持つ多様な専門スタッフを統率する役割が担えるのであろうか、更にいえば、例えば大阪市においては教頭試験を受験する教員の減少が課題となっているが、優秀な教員が一層管理職試験に背を向けるのではないかと懸念が頭をよぎる。主幹教諭についても、文科省が公表した「平成25年度公立学校教職員の人事行政状況調査」によれば、25年度の希望降任制度による主幹教諭からの降任者は157人と22年度と比べると54人増となっている。

上記のような疑問、懸念はあるにしても、臨床心理士や社会福祉士、看護師などの資格を持った人たちの力を借り、また、サポートスタッフ（支援員）として、さまざまな経験を持った地域の人たちに学校に来ていただき、たとえば、指導経験のない教員が担当している部活動を経験のある地域の人に代わってもらったりして、現状より格段に教員の負担を減らし本来の教育活動に力を傾注できるようにしていきたいという方向については賛意を示したいところ。ただ、文科省が描く構想を実現するためには、国民の支持を取りつけ、国の財布を握る財務省を説得し、国会を通す必要がある。その意味でも、さらにステップアップした構想力と本気度が、文部科学省に問われている。どのような最終答申が示されるのか興味につきないところではある。



講習 1：発信型の英語コミュニケーション能力の育成  
 講習 2：指導技術スキルアップ演習：発音・音読指導と音声素材の教材化・学習補助教材作成の工夫

**講習 1 8月3日(月)**

担当：東條加寿子、中井弘一

■講座のねらい

第一部では、効果的に伝える発信型の英語コミュニケーション能力育成にあたっては、ジャンル分析の考え方が役立つ。ジャンル分析では、まず、発信の対象と目的を明確にし、次に、どのような表現パターンが用いられているかを分析する。天気予報、新聞記事、広告文、メールなど、生徒たちにとって身近なジャンルを捉えて、効果的な発信の仕組みと工夫を考える。

第二部では、問題解決能力の育成するため「問題の定義 - 現状の理解 - 原因の分析 - 方策の決定 - 実行」というプロセス・シナリオを描きそのビジョンを相手に説得することを目的とする発信型のコミュニケーションとして、効果的に英語のプレゼンテーションを行うための基本的なスキルを紹介し、即興のプレゼンテーションを通して、英語授業でプレゼンテーションを取り入れるための工夫を考える。

●文部科学省提出報告・受講者評価結果 (49名受講：4段階評価)

- 4：よい(十分満足した。十分成果を得られた)
- 3：だいたいよい(満足した・成果を得られた)
- 2：あまり十分でない(あまり満足しなかった・成果を得られなかった)
- 1：不十分(満足しなかった・成果を得られなかった)

①本講習の内容・方法についての総合的な評価

平均値：3.84 (評価4：41人、評価3：8人、評価2・1：なし)

②本講習を受講しあなたの最新の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価

平均値：3.69 (評価4：35人、評価3：13人、評価2：1人)

③本講習の運営面についての評価

平均値：3.90 (評価4：44人、評価3：5人、評価2・1：なし)

受講者のコメント(受講者49名から一部紹介)

- ・東條先生のジャンル分析、中井先生の英語のプレゼンテーション、どちらの講習もとても参考になりました。ジャンル分析では、ジャンルという考え自体、目から鱗の状態、生徒達に今までと違ったアプローチができそうです。プレゼンテーションでは、中井先生の楽しいお人柄に引き込まれ、楽しく有意義な時間を過ごしました。私たちより若い学生さんたちの方が、上手くPower Pointを使いこなしている姿に私も学ばねばと反省もしました。
- ・両講習とも、大変勉強になりました。東條先生…確かにジャンル分析毎の move を意識することで文章を読むスピードが上がり、立体的に読むことにより主張が伝わりやすくなり、理解も深まると思いました。また、それを応用して文章を作成することもできると思いました。中井先生…具体例をたくさん示して下さい、大変楽しく学ばせていただきました。授業で応用させていただきます。ありがとうございました。
- ・頭の中でぼんやりと描いていたプレゼンテーション・スキルが具体的な形となって知識として学ぶことができました。また、今までに気がつかなかったことも多々ありました。貴重な講習をありがとうございました。
- ・本日は有意義でとても為になる講座を聴かせていただきありがとうございました。東條先生の「効果的に英語で発信する仕組みと工夫」のお話の中では、「ジャンル分析」という今まで自分の意識の中になかった発想を教えていただき、目から鱗でした。助動詞についても新たな目線をいただきました。「効果的な英語プレゼンテーションを行うために」のお話の中では、中井先生のアイディアの豊かさや何事も授業やプレゼンテーションに活かせるという目線と行動力に感動させられました。自分も授業で10年以上パワーポイントを使って授

業をしてきたのですが、もっと生徒や聴き手に効果的に伝わるプレゼンテーションをするための attitude を学ばせていただきました。様々なものを吸収し、素材を選び、構成すること、そしてその根底に不可欠なのは、聴く人々の目線や気持ちであることを再認識させていただきました。ありがとうございました。また、機構の職員の皆様の細やかな心配りやアンケートの集約、研究誌の発送などにも感謝いたします。

- ・英語の授業で、早速取り込みたいと思う内容がたくさんありました。やはり、一方的な講義形式の授業だけでなく、生徒自身に考えさせ、工夫し、アウトプットさせることがとても大切だと改めて感じました。そのためにも、日頃、私自身も教材研究や英語力を付ける努力も必要だと思いました。全体的に、最初から最後まで興味深く全く眠くならず本当におもしろい内容でした。私は1日しか受講できませんが、もう一日受けたいと思うほどでした。ありがとうございました。
- ・最初何だか難しそうなお話だと思って聴かせていただいていたのですが、両先生の発信力には本当に驚きました。私自身、あんな風に素晴らしい授業に少しでも近づける授業ができればいいなと思いました。私はまだ英語漫画とYouTube、CD デッキを使う程度で、あんな風に大画面で授業ができればうれしいと思います。完成形だけでなく、先生方がパワーポイントを使われたときの途中経過やノウハウを別の機会にまた教わりたいと思いました。
- ・今後の授業に活かせるような考え方やアイデアをいくつかいただけたので、大変有意義な講習であったと思います。東條先生の「ジャンル分析」では、私自身、これまでジャンルを意識した指導が十分にできていませんでしたが、これを使うと生徒に分かりやすい指導ができることに気がきました。中井先生の講義では、プレゼン指導のポイントがわかりやすく解説されていたので、今後の指導にすぐに活かせると思います。プレゼン指導は時間がかかるので、これまであまり取り入れていませんでしたが、今年は取り組みたいと思います。ありがとうございました。
- ・1日があっという間でした。東條先生のお話、わかりやすかったです。共感できることが沢山あり、授業活かせるヒントを沢山いただきました。ジャンルというものを意識することで、ぐっとわかりやすくなるようになりました。中井先生のお話も、先生のプライベート満載?!で親しみやすく楽しい講義でした。実際のプレゼンテーションの例も沢山見せてくださって、授業で実際に実践する際に大変参考になるお話でした。生徒が自ら発信すること、人前で話すことの大切さはわかっているつもりですが、なかなか授業で活かすことができず、試行錯誤の日々ですが、とにかくやってみよう!という気持ちになりました。ありがとうございました。

**講習 2 8月4日(火)**

担当：夫 明美、東條加寿子、中井弘一

■講座のねらい

第一部「発音・音読指導」では、英語の発音を理解し発音指導の素地を教師自身が形成するために、音素の生成過程や音のつながりの仕組みを理解し、教室で使用されているテキスト・絵本などを用いた体験型ワークショップを通して、発音向上のための練習を行う。また、音読指導のヒントについて考える。

第二部「生きた音声素材の教材化の工夫」では、リアルタイムでメディアから取り入れることが容易になった英語音声素材の教材化を考える。英語の歌、ニュースや演説、インタビューなどの英語音声素材を生徒のレベルに適した教材として作成する際に必要な観点や工夫を、教材化の演習を通して考える。

第三部「学習補助教材作成の工夫」では、読解教材で育成したい技能や語彙・文法を対象生徒に応じる習得目標を設定した上で、段階的なワークシートや学習補助教材を作成する在り方やその工夫を、教科書や実物素材などを使って教材作成するワークショップを通して考える。



●文部科学省提出報告・受講者評価結果 (53 名受講 : 4 段階評価)

①本講習の内容・方法についての総合的な評価

平均値 : 3.51 (評価 4 : 29 人、評価 3 : 23 人、評価 2 : 1 人)

②本講習を受講しあなたの最新の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価

平均値 : 3.58 (評価 4 : 33 人、評価 3 : 19 人、評価 2 : 1 人)

③本講習の運営面についての評価

平均値 : 3.74 (評価 4 : 41 人、評価 3 : 11 人、評価 2 : 1 人)

受講者のコメント (受講者 53 名から一部紹介)

- ・「発音・音読指導」は夫先生の発音の素晴らしさと私たちに対する教え方が丁寧でとても分かりやすかったです。特に顔の絵を描いて舌の動きを表すのはとても良いと思いました。英語らしい発音に向けて知らないことも多く、とても勉強になりました。ありがとうございました。「生きた音声素材の教材化」では、昨日と引き続き東條先生に教えていただき、タイムリーな話題で生徒を引きつけることが大切だということがわかりました。ありがとうございました。「学習補助教材の工夫」では、中井先生のデータの分析に圧倒されました。昨日に引き続き、とても熱心で情熱を持って大学でも授業されている様子がわかりました。スタッフの方にも、色々親切にいただき、楽しく勉強になった 2 日間でした。本当にありがとうございました。
- ・今回は特に発音・音読を自身復習し教えられるようになりたいと受講しました。プリント教材・指導はなかなか良かったのですが、せっかくですのでもっと声に出して練習したかったです。教材作成の工夫ですが、正直スピードが速すぎるのと提示内容が多すぎて何を学んだのか…と最後集中力がなくなりかけました。まずは最初に何が大事なのか伝えていただけるとあのサンプルも分かりやすかったです。…教材例集は助けとしてゆっくり見たいと思います
- ・中井先生の講義をもっとゆっくりじっくり受けたかったです。日頃、「思い込み」で作っている教材をもう一度見つめ直そうと思いました。
- ・自分が欲しかった要素 (英語の発音技術、iPad ですぐに使えるような方法、学習補助教材作成のコツ・ネタ集) がほぼすべて詰まっています。予想以上の成果を得ることができました。ありがとうございました。同僚の先生にも大阪女学院大学の講習を勧めたいと思います。
- ・今回、二日間受講させていただきました。どの講習の先生方の温かい人柄の表れた講習で楽しく充実したものになりました。お茶とお菓子の準備、また立派な資料等、本当にありがとうございました。時間に限りがあると思いますが、受講者が現在使用しているワークシートや教材を持ち寄って、少しでも交流ができれば、なお良かったと思います。また、勉強会にも参加させていただきたいと思います。
- ・「学習補助教材作成の工夫」は具体例も豊富で大変分かりやすかったです。内在的動機について、自転車の練習にたとえて話されたのは面白く、また改めて「乗って〇〇に行きたい」と思える授業づくりをしなければと思った。ありがとうございました。
- ・音声学から実際の授業での運用の例まで幅広く学ぶことができました。午後の授業は、実際授業で活かせる例も多く、もっと時間があれば…と思いました。残念です。ですが、多くの資料をいただいたので持ち帰って今後の授業の参考にさせていただきます。
- ・夫先生の講習では音声学の中で特に指導に重要なことを短い時間にたくさん教えていただいて大変興味深かったです。ありがとうございました。東條先生には、印象的なソフトを教えていただきました。他にもさらに色々なソフトのことを知りたかったです。中井先生のお話は、準備してくださった資料が大量で、語り口も情熱的、先生の発しておられるエネルギーそのものが良いお手本となりました。ありがとうございました。
- ・夫先生の講習はすぐに使える、すぐ役に立つ講習内容でとても満足しています。東條先生の講習では、iPad の使い方を学びましたが、生徒・学生の performance の評価方法なども知りたかったです。中井先生の講習は、現場を踏んだ人の視点で、楽しく、役立ちそうなプリントをお土産にくださるので、今後の教育活動に役立ちそうです。



大阪女学院大学授業デザインスキルアップ演習・現職教員支援講習

2015 年 8 月 8 日 (土) 10:00-16:30

“アクティブ・ラーニングとは何か、その方略を考える”

午前：“アクティブ・ラーニングとは何か、その方略を考える”

午後：“教科書や教材をもとにアクティブ・ラーニングの実習”

“討論：アクティブ・ラーニング導入・活用の工夫”

参加者：32 名

担当：中井弘一

参加教員コメント (一部紹介)

- ・いつも、いつも大量の資料をもとに、深い内容のご講義を頂き大変勉強になります。Active Learning という言葉の表面的なイメージや、よく示される探究学習のような指導例にばかり目が行くのですが、より深く広い視野で Active learning について考え捉えることができました。確かに一方的な講義だけではダメですが、学ぶべき内容や方向性をしっかりと示すことは講義型であれ、活動型であれ大切なことで、生徒の学びの段階に応じて、それぞれを使い分け、生徒と同じ方向を向きながら学習を進めていきたいと考えさせられました。評価についての話や実際の教材をもとにした実習など、豊富な資料集とともに大変学びの多い一日になりました。
- ・アクティブラーニングという考えが広まっている中、一般的に言われている「生徒主体・能動的」などの言葉だけを拾っているだけではわからない。もしくは勘違いをしてしまいがちな本当の意味でのアクティブラーニングとはなにかということを考える良いきっかけになりました。教師の理念をベースに、本日いただいた驚くほどたくさんの例や tip を参考にさせていただいて自分の教えているクラスの生徒に適したアクティブラーニングを考えていきたいと思いました。
- ・中井先生がこの講習を行うにあたり、様々な書籍や論文を読まれて資料をまとめていただき、講習は大変分かりやすいものでした。受講者である私をもっと active に同じように事前に何かの課題を持って参加すべきであったと反省しております。アクティブラーニングを用いた授業をするにあたり、どのような授業を行い、それを行うためのこれまでやってきた活動をどう関連づけていくかを考える良い機会になりました。私たちが事前にもっとこのアクティブラーニングを勉強してきて、更にこの受講後に振り返りをして、どう目の前の生徒や授業に活かしていくかを考えて行く機会となりました。
- ・言葉ばかりが独り歩きしているようなアクティブラーニング。あれもアクティブこれもアクティブ。「アクティブに非ずば授業に非ず」の勢いですが、何だか紅茶キノコか地中海ヨーグルト、ぶら下がり健康法を思わせる昨今、先生の講義を拝聴し、日頃のモヤモヤが晴れました。全く同感の思いです。迷わずぶれず授業に臨んでいきます。ありがとうございました。パワフルな先生にたくさんの元気と知恵をいただきました。感謝です。
- ・アクティブラーニングの方略については、アクティブラーニングのなり立ちを始め、既知の指導方法に加えて、Inactive, Reactive, Proactive などのアクティブラーニングの多面性についても触れることができ、本当の学びにつなげるために、いかに日常の授業準備が大切か、改めて認識を強くした。集中的にアクティブラーニングのことを考える貴重な時間となり、私の授業計画においても、今日教えていただいた理論を意識し、「単に話し合うことがアクティブラーニングではない」ということをよく考えて少しでも「生徒とともに学ぶ授業」を進めたい。



## 授業の玉手箱

### 語彙活動：可視化してモチベーションアップ

東條 加寿子

下の図は、Wordle (<http://www.wordle.net/>) というアプリケーションで作成した語彙模様(筆者の造語)です。Wordle に英語テキストを貼り付けて GO ボタンを押すと、瞬時に単語の頻度が活字の大きさに反映された語彙模様がアウトプットされます。フォントや色彩、レイアウト (horizontal vs vertical) をカスタマイズしてデザインを楽しむことができます。



この語彙模様を使って、様々な語彙活動が可能です。Before reading 活動としては、キーワードを確認する、何について書かれているかを brainstorm する、品詞ごとに知っている単語を列挙するなどの活動が考えられます。また、この語彙模様を見ながら、要約を試みるといった after reading 活動はどうでしょうか。ただし、Wordle が創造する語彙模様では、名詞の単数形と複数形、動詞の原形・過去形・過去分詞形がそれぞれ異なる単語として認識されるという問題があります。さらに、単語の出現頻度が忠実にデータ処理されるために、学習者にとっての新出単語が必ずしも大きな文字で表されるわけではないことにも留意が必要です。

新出単語にフォーカスして語彙増強を図りたい場合は、意図的な編集を行うことが有効です。編集のために、まず、当該 reading passage を VocabProfiler (<http://www.lexutor.ca/vp/>) にかけて語彙レベル別に分類します。次に、例えば 3000 語レベル以上に分類された単語について、教師が学習者に学んで欲しい語彙を厳選し、学習の重要性の重みづけが文字の大きさに反映されるよう、Wordle の Advanced ページ (<http://www.wordle.net/advanced>) で編集すると、下のような語彙模様ができます。



Wordle も VocabProfiler も、操作が容易で利便性が高いことが最大のメリットです。語彙を可視化することによって、語彙活動の新たな視点が発見でき、学習者のモチベーションアップが図れます。ところで、これらは何のテキストの語彙模様がお分かりですか？ここでは例として、かの有名な「16 才の少女の国連演説」のスクリプトを用いました。

## 書籍紹介

『英語の冠詞 その使い方の原理を探る』

樋口昌幸 (著) 開拓社 2009 年 1,944 円 213 ページ

今年春学期の「事前・事後指導」において、ある学生が冠詞の使い方について指導案を作成する際に参考図書として推薦し、クラス全体で該当箇所をレビューした一冊です。発行年度は 2009 年ですので、若干時間は経過していますが、わかりやすい原則と豊富な例示で冠詞の使用を解説しています。初歩的な文法では冠詞ナシの play + baseball (競技名) と冠詞アリの play + the + violin (楽器名) をメカニカルに扱いがちなポイントを探求するのに有益です。

例えば、原則 II では「姿不定は冠詞なし」として、指示物が形を保っている場合は a/an をとり、形を保っていない場合は a/an を取らないと紹介されています (p. 19)。一例を引用しますと、動物とその肉では冠詞の有無が異なります。

a. We had fried chicken for dinner.

b. A male chicken is called a cock and a female chicken is called a hen.

上記の例だけにとどまらずに、単語の表面的な形式だけに注目しては気づきにくいことが紹介されており、私のように英語を第一言語とせず直観に頼れない教員にも心強い一冊です。イラストやチャートも使用されて、視覚的にも工夫が見られます。もう一つ面白い点は、ほぼすべての原則が上記のように「七五調」で記されていることです。

(夫 明美)

## 編集後記 / 第 39・40 回勉強会案内

本学の教職フィールドワーク(英国) 引率で英国に 9 月の 2 週間滞在した。その間、新聞やテレビでは、シリアからの難民のことがヨーロッパの国々、英国でも大きな話題になっていた。難民の子どもの死はキリスト教の人々に大きな衝撃を与えた。しかしながら、ヨーロッパの国によってその対応は異なった。英国は二の足を踏んでいた。

### Britain Offers a Haven to Child Refugees

Thousands of child refugees from Syria are set to be given new lives in Britain under plans being hammered out in Downing Street today. Cameron at odds with European leaders over plan to help refugees. グローバル化とは美しいだけの言葉ではないことを実感した。

### \*\* 第 39 回勉強会「英語の教え方教室」 \*\*

2015 (平成 27) 年 10 月 17 日 (土) 14:00 ~ 17:00  
「教職フィールドワーク(英国) 報告・課題研究発表」

参加した学生二人が、訪問校で行ったプレゼンテーション、英国で観察した日英文化の比較、教材開発等の課題研究などの 3 点のまとめを研修の一環として英語で発表する。

### \*\* 第 40 回勉強会「英語の教え方教室」 \*\*

2015 (平成 27) 年 11 月 14 日 (土) 14:00 ~ 17:00  
「私の授業実践—自己効力感を高めたい [英語表現 II]」

滋賀県立安曇川高等学校の杉浦悠真先生に、英語学習や勉強に対してモチベーションが低い生徒に授業を興味深いものにする実践を話していただく。

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学  
教員養成センター Teacher Development Support Center

540-0004 大阪市中央区玉造 2 丁目 26 番 54 号  
Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373  
Homepage: <http://www.wilmina.ac.jp/ojcedu/ttc>  
e-mail: [ttc@wilmina.ac.jp](mailto:ttc@wilmina.ac.jp)

